



## 谷津干潟で野鳥観察会

3月1日、大雪で延期になっていた谷津干潟観察会に行ってきました。曇り空で寒かったのですが、自然観察センターの中は暖かく快適でした。

谷津干潟は海に面しているわけでもなく、思っていたほど広くもなく、干潟の一部を切り取った形で、一見すると不思議な形をしています。

谷津干潟は東京湾の最奥部にあった広大な干潟の一部でありました。明治の頃から養漁場があってその後大暴風雨などにあって廃止されたり、大正の頃はレジャー施設とした京成が買い取ったりしていたようですが、どんどんと開発が進み悪臭を放つゴミ捨て場となってしまったとき、このままでは干潟がなくなってしまうと危機感を持った有識者や市民によって、昭和46年には「干潟を守る会」が結成され、その後長年にわたって多くの方たちが、いろいろな立場で、ゴミを拾い続け、干潟の大切さを訴え続けて21年後の平成4年に谷津干潟公園の一部がやっと開設され、平成5年にはラムサール条約の登録地となって平成6年現在の自然観察センターのある谷津干潟公園になったようです。

この干潟を残すに当たってたくさんの方の努力



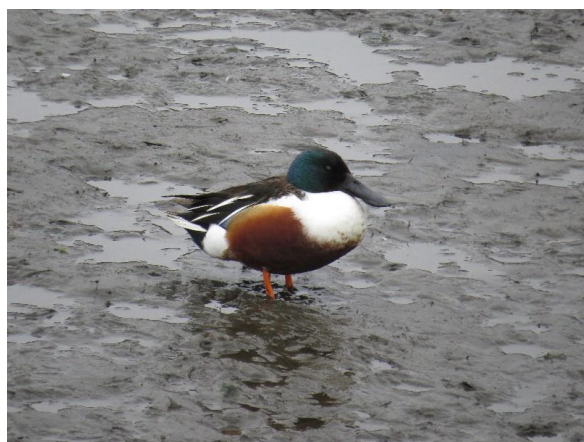


と21年間があったのですね、大切な干潟ですね。

谷津干潟は40haの干潟です。干潟と、高台の淡水の池があり、間にはヨシ原があってヨシ原の草刈はボランティアがやっているようでした。センターからはこの両方が観察でき、干潟に面した窓からはユリカモメの群れが観察でき、飛んだり、干潟に降りて餌を探したりしています。ユリカモメの餌はセンタースタッフの話だとゴカイなど動物性の物が好みのようです



が、石神井川で見たユリカモメはパンを貰ったりしているので雑食でしょうか。他にはダイゼン、はじめて見ましたがダイゼンもエサはゴカイのようです。ユリカモメより一回り大きいセグロカモメ、セグロカモメの背中中は黒くありませんでした。コガモの群れは忙しく飛び回っていました。ここにはオオタカが現れるので落ちついていられないのでしょうか。カワセミが1羽、小魚を捕まえて飛んで行きました。



午後は干潟の周りの観察路を歩いて観察しました、すぐ近くでコガモ、顔が綺麗な赤茶色のヒドリガモ、尻尾の長いオナガガモなど群れになっていて繁殖の季節を迎えるためかカップルになっているようでした。メスはほとんどが茶色で地味なので、派手なオスと一緒にいないと種類は特定できないように思いました。セイタカシギのカップルも見ました、やはりメスは茶色で地味でした、他にはオオバン、カワウ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ツグミなど見ることができました。季節を変えてまた来てみたいと思いました。

写真は次ページにもあります。(瀬田政江)

写真上：ユリカモメの群れ

写真中：セイタカシギとコガモ

写真下：ハシビロガモ





写真左上：オオバン 写真右上：カワウ 写真左下：セグロガモメ 写真右下：ヒドリガモ

## 植物の知恵・種のふしぎ

### 「環境なんでも見本市」に出展して

2月の「環境なんでも見本市」には、植物の戦略―「種」を展示しました。種のテーマは今年で3年目なので、もっとよい展示を、とあれこれ検討していたところ、直前になって種が集まっていないことに気がつき、大あわてで手分けして種を採集することになりました。

それで気がついたのです。種のついた枯れ草がないのです。「あるはずの空き地がなくなり、建売住宅になった」、「荒れ地がない」「雑草の種があっただけ、急斜面で入れ





ない」等々。公園の草地も刈られ、植え込みの隅もきれいに掃除されています。やっとイノコズチやアメリカセンダングサなど集めて持ち寄りました。

雑草はきたないとじゃまもの扱いされていることはわかっていますが、それにしても、草地をもう

少し大事にしてほしい。草地の喪失、雑草の排除は、草の種を食べる野鳥たちには食糧難につながります。都会のスズメは少子化で、一つがいのスズメが連れているヒナの数は2羽以下だとか。エサ不足も少子化の一因でしょう。

採集したエノコログサ（ネコジャラシ）1本の穂をポリ袋に入れておいたら、ポロポロ種がこぼれ落ち、かなりの量になりました。野原で野鳥がついばんでいる間に、食べられなかった種に

ついての毛が野鳥にくっつき、それがどこかで散布されます。エノコログサの子孫を残す戦略ですね。

さて、私達は、集めた種をばらまき方法ごとに分けて、紙でつくった皿に盛りました。木の種も雑草の種も精巧にできていて、ドライフラワーのようにきれいで、注目を集めました。クイズラリーのクイズは、種のばらまき作戦についてです。

ばらまき方法によっ

てグループに分けてならべました。クイズは「あ」の皿の植物はどんな方法で種をばらまいているでしょうか」というものです。





- ① 動物や人にくっついてはこぼれる
- ② 風の力を利用してとおいへ飛ばす
- ③ 鳥が実を食べて種をフンでおとす
- ④ その他

「あ」の皿には、動物にくっついて運ばれる種（くっつき虫）がいろいろ入っていて、①が正解です。

種を触ったり、エコポリスセンターで借りた実体顕微鏡で見ると、くっつき虫のマジックテープのような表面や、釣り針の返りのように抜けにくいトゲなどがよくわかり、植物の知恵に感心してしまいます。くっつき虫がくっついた布も用意しました。



写真左：実体顕微鏡をのぞくと、種（くっつき虫）のトゲトゲがよくわかる。

写真右：布に張り付いた種（くっつき虫）



ヤマノイモの果実（左）は3枚の羽根を張り合わせたようなもので、間に種（右）を挟んでいる。種のまわりにはひれ（翼）がある。

風の力を利用して飛ぶ種には、タンポポがおなじみですが、プロペラがついたものや、凧のように浮力がつく工夫がされた薄い膜のつばさのついたものなどがあります。スチレンペーパーで大きな種の模型をつかって、紙飛行機のように飛ばしました。くるくる回ってこれも楽しいです。

野鳥に食べてもらって糞と一緒に散布してもらうグループは、赤青黄と色とりどりで野鳥の目を引く工夫がされています。

いろいろな種をながめていると植物の知恵がわかります。中にはクズやサイカチなど、はじけそうもない固いさやにしっかり守られていて、どうやって種を散布させるのかわからないものもありますが、岩田先生が「私たちが知らないだけで、目的があるんですよ、きっと」と言われました。なるほど、私たちが今わからないだけなんだ、と納得。

地味な種もひとつひとつ見ると美しく自然の芸術品です。きれいな種だね、と感心されたり、こんなものがその辺にあるとは知らなかったとびっくりされたりしました。私達も出展を通して植物の知恵を知りました。

環境なんでも見本市は、板橋区主催で、いたばしエコ推進協議会が企画運営し、環境団体、学校・企業・学校・行政が参加する協働事業で、いたばし水と緑の会は、日頃の活動の中から会にふさわしいテーマを考えて毎年出展しています。

見本市は環境教育の場として、クイズラリーでブースを見てまわるよう工夫されています。パネル展示だけの出展が多いのは残念です。パネルは壁紙みたいなものでほとんど見てもらえません。またクイズの魅力だけでは、展示を見てもらえないので、クイズラリーには景品がつきます。以前は子供向けには綿アメでしたが、昨年からポイントカードを集めるやり方になりました。ポイントカードは「かえっこバザール」のおもちゃの引換券になり、展示をよく見て、答えを考え、わからないときはブースの人に聞いて理解した人がもらえます。ポイントカードのおかげで子供だけでなく大人もよく見てもらえるようになりました（家中でカードを集める作戦らしい）。それでもクイズがちょっとむずかしいとパスされてしまうので、展示を見ればすぐ答えがわかる、ということも要求されます。これがむずかしい。参加者は低学年から大人まで。環境教育といいながら、すぐに答えがわかることでもいいのか、いつも悩み考え込んでしまいます。「答えはこれですよ」「ああ、そうですか」ではつまらない。気がつかないけれど身近に生き物たちが一生懸命生きていることを知ってほしい、そして「へえー、そうなんだ。おもしろいねえ」と思ってもらえるクイズにしたいと、みんなで知恵を絞ります。

そして、当日は、私達も来場者と一緒に「種って、おもしろいねえ、植物ってすごいねえ」と、見本市を楽しんだ2日間でした（坂本 郁子）。

## ムクドリ「ねぐら」を探した

私の家はマンションの5階です。夕方窓の外を見ていた夫が、「あっ」と声を上げたので、見ると南の空を鳥の群れが右に、左に旋回しています（次頁写真左）。それから時々夕方空を注意して見るようになりました。10羽ほどのグループが次々と東へ、東へと飛んでいきます。また、西側のかかなり離れた電線ムクドリがずらっと並んでいました。早速買ったばかりのカメラで撮影しました。それが右の写真です（後ろは富士山です）。撮影後しばらくして、ムクドリはいなくなり、その後も注意して見っていますが、この電線に止まったムクドリは見えていません。

野鳥たちは、秋から冬の季節、集団でねぐら（ねぐらは漢字で「埕」と書く）で夜を過ごします。前号で紹介した「身近な野鳥たちの都市生活」で講師の川内博先生は、お住まいの和光市のマンションの敷地内で、集団ねぐらに集まるをスズメの数をカウントされました。1500羽～



左：1月9日 鳥の群れが旋回

右：1月15日5時7分 ムクドリ



1800羽が集まり、明け方、荒川の方を目指して飛んで行っていたが、台風の後には200羽に減ったと話されました。

東京のカラスの主な集団ねぐらは、明治神宮、豊島岡御陵、目黒自然教育園です。東京都のカラスの生息数は、集団ねぐらに集まるカラスをカウントして出しているそうです。

私は以前、川越駅前の広場で、ハクセキレイの集団ねぐらを見たことがあります。ムクドリが駅前などの街路樹にねぐらを作るので、集合時の鳴き声がうるさい（騒音）とか糞害で、社会問題になっているようですが、よい解決方法はないようですね。

自宅のそばでねぐらに帰るムクドリたちの発見に興奮しましたが、知っている人は知っていました。別の日にムクドリの小グループが飛んでいった東の方に行ってみたら、ムクドリが電線にずらりと止まっていたのですが、それも中継地点のようでした。また別の日、大きな群れが降りたあたりを夜行ったら、竹藪から、かすかな鳴き声が出てここが集団ねぐらとわかりました。場所は緑小学校と保育園（どちらも夜間人がいない）の間の竹藪でした。夜明け前、寒さに震えながら待っていると、ムクドリたちは次々と飛び立ちました。いつもここに来るのかどうかはわかりませんが、都会の中で生きているムクドリのねぐらが人間に迷惑のかからない竹藪にあって私はほっとしました（坂本 郁子）。

## 観察と活動の記録

1月25日（土）バッタ広場

18日に引き続き実生木を根元から伐採

2月14日（土）谷津干潟観察会 大雪で延期

2月22日（土）バッタ広場

2月14日の大雪はほとんど消えた。実生木を根元から伐採してなくなるとバッタ広場はアズマネザサの天下になるので、こんどは笹を集中して刈る。

3月1日（土）谷津干潟観察

3月16日（土）うめ祭りのため活動は中止

# 活動のお知らせ

**運営委員会**：3月29日（土）12：30～13：30

次年度の活動計画等をつくります。

連絡先；坂本（090-4618-1295）

●会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

日時：5月17日（土）12：30～

活動の問い合わせは事務局 瀬田（3969-7124）まで

## 活動予定いろいろ

### 1 赤塚ビオトープの観察と環境整備（雨天の場合は観察とゴミ拾い）

いずれもトンボ池前集合。

トンボ池については、来年度の再生工事の準備として、池周りの常緑樹を切って、野草の生育を促し、作業がやりやすいように不要なものを片付けたりします。バッタ広場は徹底柴刈りで更地になったので、今度はササ刈りです。刈った草等はそのままにします。

3月22日（土）10：00～12：00 トンボ池周りの常緑樹切る

2月29日（土）10：00～12：00 バッタ広場のササ刈り

4月19日（土）10：00～12：00 トンボ池の物調査（ヤゴがいないか？）

4月26日（土）10：00～11：00 未定

### 2 日暮台公園樹林地の観察プラスα

（樹林地内の推移と林縁植物を観察、様子を見て林縁の草取りなど）

4月5日（土）、5月3日（土）いずれも10：00～11：30 日暮台公園前集合

**総会があります** 資料は会員には後日郵送します。必要な方は事務局まで連絡を。

日時：4月26日（土）11：30～14：30

場所：三園1丁目集会所

会費：800円程度

● ビオトープ管理のボランティア大歓迎

生き物のすめる水辺（トンボ池）や草地（赤塚公園バッタ広場）などの管理作業を応援していただませんか。

大きくなった木を切ったり、セイタカアワダチソウなどの外来植物や生育旺盛なササを刈り取ったりしています。

● あなたも会員になってください（年会費2000円：振込先は表紙に記載）